

第2学年 体育科学習指導案

令和4年 月 日

指導者

1 単元名 「〇〇〇忍術修行！～とびっこ遊びの巻～」（跳の運動遊び）

2 単元について

本学級の児童は、体を動かすことが好きで、休み時間も外で鬼ごっこやドッジボールなど汗びっしょりになって遊んでいる。このことは、96%の児童が「運動が好き」、92%の児童が「体育が好き」と回答したアンケート（10月12日実施）結果にも現れている。また、アンケートは本単元3時間目を終えた時点で実施したものであるが、「とびっこ遊び」が好きと、全員の児童が回答していた。その理由として、跳ぶという動きのおもしろさ、跳び方や用具を工夫する楽しさなどが挙げられていた。運動をあまり得意としない児童も、勝敗や優劣に関係なく、いろいろな用具を用い多様な跳び方に出会えたり工夫したりすることに楽しさを感じていることがうかがわれた。また、「〇〇〇忍術修行！～かけっこ・リレーの巻～」（9月中旬）での経験をもとに、「自分たちでコースをつくってみたい」という声が多く出されていた。しかし、一人一人の跳ぶ動きに目を向けると、技能に大きな差が見られた。軽快に連続して跳ぶ動きができる児童もいる一方、うまく体を操作することができずぎこちない跳び方になったり、助走をつけなければ跳べないと感じていたり、用具を跳び越すことにまだまだ不安をおぼえたりする児童もいる。力のコントロールができず、勢いにつきすぎるなど、安全面での留意が必要な児童もいる。このことを受け、本単元では、自分たちがやりたい跳ぶ動きをつくっていく活動をベースに、「できた」「おもしろい」という成功体験を味わわせたい。

本単元は、いろいろな用具を跳び越える、前方や上方などさまざまな方向に跳ぶ、いろいろなリズムで連続して跳ぶなど、多様な跳ぶ動きを楽しむことをねらいとしている。「ふわっと」「ピョンピョン」「ビューントン」など跳ぶ動きそのものもつ運動感覚を存分に味わわせたい。さらに、いろいろな跳ぶ動きを組み合わせることで生まれてくる動きの変化やリズムのおもしろさに気付かせたい。そこで、「もっと“おもしろい”ふわっと等にするためにどうしたい？」「ふわっと等を極めるにはどうすればよい？」と問いかけ、児童が主体となって、コース作りに取り組むことができるようにする。その中で、自分なりの思いや願いをもって、何度も試したり改善したりしながらコースの工夫に挑戦することで自然と前方や上方に跳んだり、連続に跳んだりするなどの基本的な動きが身に付いてくるのではないかと考え、本単元を設定した。

本単元の指導にあたって、話し合い活動だけでなく、動きのまねっこや見せ合いっこなど実際に体を動かすやりとりを通して友達と関わりながら、動きの広がりや楽しさ、おもしろさに触れることができるようにしたい。第一次では、跳び箱、段ボール、ゴムなどいろいろな用具に出会わせ、それぞれの用具ごとに試しの活動を行う。その際、いろいろな跳び方を自分たちで考えたり工夫したりする楽しさに気づかせたい。おもしろい跳び方を紹介したり、友達の跳び方をまねてみたりしながら、同じ用具でもいろいろな跳び方ができるおもしろさに気づかせた。また、いろいろな跳び方にオノマトペを用いて表現し、跳ぶ動きの独自性やおもしろさを感じることができるようにした。第二次では、もっともっと「ふわっと」「ピョンピョン」「ビューントン」といった動きがおもしろくなるよう、用具や跳び方をどう組み合わせればよいか、話し合わせた。友達の考えを認めたり、自分の考えを伝えたりする中で、いろいろな動きに挑戦することができるよう、つくりたいコースの希望をもとにチームを編成するとともに、コースを進化させる時間や回数を十分確保する。また、友達が作ったコースを跳んでみる時間を位置付け、実際に跳ぶ中でそれぞれのコースの“おもしろい”に気づかせたり、やってみたいという思いを広げたりできるようにした。第三次では、第二次で極めた4つの跳ぶ動きを一つ

のコースとしてつなぎ、「とびっこランド」を作る。いろいろな跳び方を連続して跳ぶ中で、それぞれの跳ぶ動きの特徴や動きが変化するおもしろさ、体の使い方の違いを存分に楽しませたい。また、第一次では、ただ一つの動きからなる短いコースであったものが、体育館全体に動きやコースがダイナミックに広がるとびっこランドになる。自分たちの思いのつまったコースを跳ぶことで達成感を味わわせ、自身の成長を実感させたい。

3 目標

- (1) 跳の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、いろいろな跳び方の特徴をとらえ、片足や両足で踏み切ったり、前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすることができるようにする。
【知識及び技能】
- (2) いろいろな跳び方の特徴をとらえ、前方や上方に跳ぶ簡単な遊びを工夫する中で、より“おもしろい”跳び方が楽しめるよう、友達と協力してコースを作ったり、考えたことを友達に伝えたりすることができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
- (3) とびっこ遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り、誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】

4 評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習活動における 具体的評価規準	<p>① 跳の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知ることができる。</p> <p>② いろいろな跳び方の特徴をとらえ、片足や両足で踏み切り、前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすることができる。</p>	<p>① いろいろな跳び方の特徴をとらえ、前方や上方に跳ぶ簡単な遊びを見つけたり、友達の跳び方をまねしたりしている。</p> <p>② より“おもしろい”跳び方が楽しめるよう、試してみたりつくりかえてみたりしながら、友達と協力してコース作りを工夫している。</p> <p>③ 友達のよい動きの特徴をみつけたり、自分で考えたことを友達に伝えたり、カードに書いたりしている。</p>	<p>① いろいろな跳び方やコース作りに進んで取り組もうとしている。</p> <p>② 友達と協力しながら仲良く活動しようとしている。</p> <p>③ 用具の使い方や順番を守って、安全に気を付けている。</p>

5 単元計画 (全10時間)

段階	学習活動と内容	支援 (※) 及び具体的な評価 (★)
第一次 ④	<p>1 いろいろなとびっこ修行を行う。</p> <p>(1) とびっこ修行を行う際のきまりといろいろな動きを知り、出会いの活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川跳び ・ケンパー跳び ・跳び箱跳び ・ゴム跳び ・段ボール跳び ・フープ跳び ・ラダー ・ミニハードル <p>(2) いろいろな用具の使い方や安全面で気をつけることなどを知り、やってみたい跳び方を考えたり、工夫したりする。</p> <p>(3) 跳ぶ動きだけでなく、着地の心地よさやかっこよさ、安全性にも目を向けさせ、活動を行う。</p> <p>○学習意欲や学習の見通しをもてるようにする。</p> <p>○協力しながら、用具の準備や片付けができるようにする。</p>	<p>※おもしろいを体感できるようにするための簡単な（誰もが跳べると感じる）場の設定をする。</p> <p>※よい動きを全体で共有できるように、モデルとなる児童を紹介する。</p> <p>★とびっこ遊びの行い方を知り、意欲的に活動している。</p> <p>★オノマトペやリズムで友達と声掛けをしながらいろいろな動きで遊んでいる。</p> <p style="text-align: right;">【行動観察・発言】</p>
第二次 ⑤	<p>2 いろいろな用具を組み合わせ、“おもしろい”を楽しむことができるのとびっこ修行のコースをつくって、とびっこ修行に挑戦する。</p> <p>(1) 目標を立て、いろいろな道具をつかった My 修行コースを作る。試し跳びをもとに My 修行コースを工夫改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高く跳ぶ（ふわっとコース） ・速く跳ぶ（トントントンコース） ・リズムよく跳ぶ（ピョンピョンコース） ・遠く跳ぶ（ビューントンコース） <p>(2) より“おもしろい”修行コースをつくり、友達と見せ合ったり、友達の作ったコースに挑戦したりする。友達のコースを参考に、修行コースを工夫改善（進化）する。</p> <p>○何度も繰り返し跳ぶ中で、自分たちの担当するコースの跳び方の特徴や友達の作ったコースの跳び方のよさを味わえるようにする。</p> <p>○より“おもしろい”を感じられるようにするという課題意識をもち、楽しみながら工夫改善（進化）できるようにする。</p>	<p>※話し合いが円滑に行えるよう、目的を明確にしたグループを編成する。</p> <p>※自分のコースの跳び方を意識することができるよう、オノマトペで声をかける。</p> <p>※同じ用具でもいろいろな跳び方ができることに気付くことができるよう、意図的に紹介したり、演示したりする。</p> <p>★みんなが楽しく跳ぶことができる場の工夫を考えたり、自分が楽しみたい道具を選んだりしている。</p> <p>★片足や両足踏み切りで、前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすることができる。</p> <p style="text-align: right;">【行動観察・発言・ご褒美カード】</p>
第三次 ①	<p>3 4つの跳ぶ動きを一つのコースとしてつなぎ、「とびっこランド」を作る。</p> <p>○連続して跳ぶ中で、跳ぶ動きの変化を楽しむことができるようにする。</p> <p>○友達と力を合わせるからこそできる達成感や、自身の成長を実感できるようにする。</p>	<p>※跳ぶ動きが変わるところに目印となるコーンや表示を置き、それぞれの跳び方の特徴をとらえながら跳ぶことができるようにする。</p> <p>★跳ぶ動きの変化を楽しみながら跳んでいる。</p> <p>★単元全体を振り返り、自身の成長に気付いている。</p> <p style="text-align: right;">【行動観察・発言・ご褒美カード】</p>

6 本時の学習（8／10）

（1）本時の目標

○より“おもしろい”跳び方が楽しめるよう、試してみたりつくりかえてみたりしながら、友達と協力してコース作りを楽しむことができる。

○友達のよい動きの特徴をみつけたり、自分で考えたことを友達に伝えたり、カードに書いたりすることができる。

時間	学習内容と活動	教師の支援	評価
5	<p>1 とびっこ遊びで使う身体運動を行う。準備運動を行うと共に、前時の活動を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>○まねっことび</p> <p>○いうこといっしょやることいっしょ</p>	<p>1 前時の評価カードに書かれていた「やってみよう」を紹介する中で、本時への意欲を高める。</p> <p>○本時の活動に必要な要素を取り入れた身体感覚運動を行い、心と体をほぐすことができるようにする。</p>	
より“おもしろい”修行コースをつくり、いろいろなとびっこ遊びをしよう！			
15	<p>2 前時に考えたコースをつくり、いろいろな跳び方を楽しんだり、友達と関わったりしながらさらに楽しくなるように改善しながら遊ぶ。</p> <p>○用具を準備しコースを作る。</p> <p>○より「ふわっと」などがおもしろくなるような跳び方を組み合わせられるよう、動きや用具の置き方、置く順序などを工夫する。</p>	<p>2 自分たちのおきのコースを考えられるように、時間を十分に確保する。用具の置き方や高さなどを変えるなどいろいろな跳び方に挑戦している児童を紹介し、跳ぶ楽しさを体感できるように支援する。</p> <p>○楽しい雰囲気を醸し出すために、BGMを流しながら行う。</p> <p>○みんなが楽しめるコース作りの工夫ができているかを確認したり、称賛したりする。</p> <p>○自分たちのこだわりポイントを聞き手に伝えるために、実際に跳んでみるように促す。</p>	より“おもしろい”跳び方が楽しめるよう、試してみたりつくりかえてみたりしながら、友達と協力してコース作りを工夫している。(思考・判断・表現)
20	<p>3 友達の作ったコースの工夫や「おもしろい」を体験する。</p> <p>○自分たちのコースのおすすめポイントを紹介する。</p> <p>○チャレンジしたい友達のコースを決めて遊ぶ。</p>	<p>3 それぞれのコースの特徴、跳び方の“おもしろい”を意識しながら跳ぶことができるよう、コース名を示したホワイトボードを掲示したり、オノマトペを用いながら支援したりする。</p> <p>○苦手意識のある児童は、その児童ができるコースを選んだり、跳び方を変化させたりしてもよいことを伝える。</p>	
5	<p>4 「おもしろい」「やってみよう」を発表し、本時の振り返りを</p>	<p>4 どんどこころに“おもしろい”と感じたのか発言させたり、教師自身が見取った</p>	友達のよい動きの

	<p>する。</p> <p>○自分が作った修行コースを片付ける。</p> <p>○今日の自分にぴったりの振り返りカードを選んだり、「おもしろい」「やってみたい」を発表したりする。</p>	<p>動きのよさを紹介したりする中で、子どもたちの自信や「やってみたい」という思いが高まるようにする。</p> <p>○友達と協力して、安全に用具を片付けられるようにする。</p> <p>○友達の作ったコースの“おもしろい”や動きのよさをたがいが認め合えるように声をかける。</p>	<p>特徴をみつけたら、自分で考えたことを友達に伝えたり、カードに書いたりしている。</p> <p>(思考・判断・表現)</p>
--	---	---	--

(2) 本時の評価規準

<p>「十分満足できると判断される状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コースの特徴に応じた跳び方にはどんなことがあるかを考え、試行錯誤しながら選んでいる。跳ぶ動きにあわせてコースの形などを工夫している。 ・友達のよい動きの特徴や作ったコースのおもしろさなどを、擬音語や身振りなど多様な表現を用いて具体的に伝えたり、カードに書いたりしている。
<p>「概ね満足できる」状況を実現するための具体的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動でくふうしてきたいろいろな跳び方を思い起こさせたり、同じ用具でもいろいろな跳び方ができることを示範したりする。 ・児童の話し合いに入り、児童の伝えたいことを言語化や動作化できるように、教師と一緒に考える。